
1 年次後期・選択

1 単位・15 時間

【概要・目的】

人生のそれぞれの時期における対人関係はどのように作られ、維持されていくのかを考える上で必要な心理学的知識を学び、応用する力を身につける。身体の発達や社会での位置づけの変化と共に、人間の情報処理や感情がどのように変わっていくのか、変動する環境にどのように適応していくのかを考える。国家試験には出ないが、対人援助職には必須の知識である。今年度のこの科目は、まだ学びの余裕のある 1 年次の時間を活用し、講読形式の授業で、成人の生涯教育に応用可能な知識を得る。

【到達目標】

- 1) 社会心理学及び発達心理学に関する学術的知見と雑学との違いを見分けられるようになる。
 - 2) 本に書いてあることを丸写ししたり暗記したりするのではなく、どういうつもりで書かれているのかを考えながら、「話半分」に読解できるようになる。
-

【授業内容のスケジュール】

- 1) 無藤・若本・小保方(2014) 1-6 及び 9-10 章を読む。
 - 2) 無藤・若本・小保方(2014) 7-8 及び 11-15 章を読む。
 - 3) スレーター&クイン(2012/2017)1-5 章を読む
 - 4) スレーター&クイン(2012/2017)6-10 章を読む
 - 5) スレーター&クイン(2012/2017)11-14 章を読む
 - 6) 高橋(2013)を読む
 - 7) 川島・近藤を読む(2016)
 - 8) 川島・近藤を読む(2016)
-

【評価】

書評課題で 100%評価する。期末試験は実施しない。

書評課題は 2 種類ある。毎回の授業の準備用の書評と、最終課題の書評である。どちらも書評であるが、書き方が異なる。前者をクラス・ペーパー(CP)と呼び、後者をブックレビュー(BR)と呼ぶことにする。CP は合計 64 点、BR は 48 点満点で、100 点超過分は切り捨てである。

CP は読むべきところと、読んでも仕方ないところを毎回記述するもので、これをクラスで共有して討議する。

BR は冬休みから始める課題であり、図書館などで見つけた「トンデモ本」とその間違った知識を改善する「推薦書」を論じるものである。

【教科書】必携

無藤・若本・小保方「発達心理学」 培風館 2014
アラン・M・スレーター/ポール・C・クイン(編)「発達心理学再入門」 新曜社 2012
高橋恵子「絆の構造」 講談社(現代新書) 2013
川島・近藤「はじめての死生心理学」 新曜社 2016。

【推薦参考図書】

授業運営用シラバスで説明する。

【その他】 授業に関する質問などは、「オフィスアワー」時間帯(研究室のドアに掲示)でしか対応できない。「オフィスアワー」以外は、必ず事前にメールで面会予約を取ること。